

令和2年度 海とまちをつなぐ公民連携にぎわい創出事業

## 第1回舟運社会実験の実施報告（速報版）

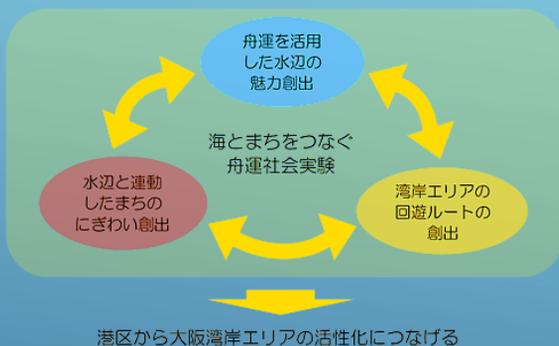
港区役所

【実施日】令和2年11月15日（日）

【実施目的】

- ・舟運を活用した水辺の魅力創出
- ・水辺と連動したまちのにぎわい創出
- ・湾岸エリアの回遊ルートの創出

港区舟運社会実験の実施コンセプト



港区から大阪湾岸エリアの活性化につなげる

### 【舟運社会実験の実施概要】

- ・使用船舶：キャプテン・シルバー（※定員146名のところ52名で運行）
- ・第1便 弁天埠頭～舞洲臨時船着場
- ・第2便 弁天埠頭～サンセットクルーズ～天保山西岸壁

### 【舟運社会実験で検証する主な事項】

- ・舟運と連動した水辺のにぎわい形成のあり方の検証
- ・2025大阪・関西万博開催時の舟運輸送の可能性の検証
- ・シェアサイクルとの連携による回遊ルートの創出についての検証
- ・コロナ禍における安全なイベント開催のあり方の検証 等



## 【新型コロナウイルス感染症対策】

### ○乗船時の対応

- ・乗船時のソーシャルディスタンスの確保
- ・乗船客への手指消毒の呼びかけ
- ・マスク着用の徹底の呼びかけ
- ・非接触型体温計による検温の実施
  - ※37.5度以上の発熱の恐れがある、咳込んでいる、マスク着用の無い乗船客については、乗船をお断りする。
- ・厚生労働省接触確認アプリ（COCOA）、大阪コロナ追跡システムの登録・利用の呼びかけ、QRコードの掲出
- ・乗船時の船内誘導に際して、乗客間の一定距離（2メートルを目安（最低1メートル））を確保する。
- ・後日、乗船客から感染者が発生した場合に備え、（団体は代表者）の氏名・連絡先の把握及び管理の実施

### ○船内の対応

- ・最大定員（146名）の半分の乗船とし、ソーシャルディスタンス（2メートルを目安（最低1メートル））を確保
- ・船内の開口部を開放し、換気を徹底
- ・船内での飲食の禁止
- ・ドアノブや手すりなど、手に触れる個所の定期的な消毒

### ○下船時の対応

- ・下船時の誘導に際して、乗客間の一定距離（2メートルを目安（最低1メートル））の確保の実施

### ○スタッフの対応

- ・マスク着用、手指消毒の徹底
- ・体調管理の徹底

【弁天埠頭（安治川突堤北岸壁）の現状】



【弁天埠頭ポンツーン設置時】



【弁天埠頭の活用状況】



【船舶へのシェアサイクルの積み込み（弁天埠頭）】



【船内のソーシャルディスタンスの確保状況】



【シェアサイクルの格納状況】



【安治川からユニバーサルシティポート方面の風景】



【舞洲臨時船着場】



【舞洲臨時船着場】



【サンセットクルーズのようす】



## 【アンケート結果（速報）】

○弁天埠頭～舞洲航路間については参加者から概ね高評価を得られた。

（参加者の声）

- ・初めて海から港区や此花区のまちを見て素晴らしく感動した。
- ・海からの景色が新鮮でした。
- ・舞洲へ行くのに意外と便利。

○また、「万博会場への移動手段として弁天埠頭から船舶を利用したいと思うか」という設問に対しては、「ぜひ利用したい」「他の輸送機関の混雑状況によっては利用したい」という回答が多数であった。

○一方で、今回の実験航路である弁天埠頭から舞洲への乗船料金設定に関しては、1,000円程度まで（500円未満が多数）が妥当であるという回答がほとんどであり、採算性の確保について課題が大きいと考えられる。